

平成 28 年度第 2 回子ども権利委員会会議録

- I. 開催日時：平成 28 年 9 月 26 日(月) 13:30～15:30
- II. 場 所：名張市役所庁議室
- III. 出席者：子ども権利委員会 委員長、副委員長、委員 5 名
事務局：福祉子ども部次長、子ども家庭室長、子ども家庭室員 2 名
- IV. 内容：ばりっ子未来応援地域ネットワーク形成支援事業について

【質疑・意見交換】（○：委員 ⇒：事務局）

- 子どもの貧困対策コーディネーターはどのような立場の方が選出されますか。
⇒まず、メインとなるのが市役所の子ども家庭室です。1名臨時職員を増員します。
- 外部からの専門家ですか。
⇒専門的な対応をして頂ける方です。その方が出来るだけ長く続けて頂ける体制を取っていき、問題が起こった時は職員と一緒に対応していきます。
- 長く実質的な活動してもらうには、一人では負担になりませんか。
⇒家庭児童相談、女性相談や子ども相談に相談員が5名配置されています。長期間の勤務、雇用も可能となり、かなりの専門性も持ってきています。そのような相談員と一緒に連携しながらやって頂く事で一定の力を持てると思います。
- 週何回ですか。
⇒週4日です。
- 子どもの貧困対策のコーディネーターは、どのような資格の方が任命されますか。
⇒資格をお持ちの方が望ましいですが、なかなかいらっしゃいません。そのような中で一定経験をお持ちの方をお願いしたいです。
- どのような経験ですか。
⇒例えば児童福祉の所で、長い間いてくれた方ですね。
- 職員ではなく職員外ですね。元職員ですか？
⇒そのような人も対象です。
- 第三者的な意見をはっきり言える人が良いのではないのでしょうか？OBは内情が分かり過ぎてて、このようなこと言うのはかわいそうと思う様な人は改革出来ないのでは？コーディネーターだから相談を受ければ良いですか？
⇒コーディネーターですので、受付たことを子ども対策と繋げていくという事になります。実際の相談は貧困だけではありませんので、対応について家庭児童相談や、名張の場合は子ども相談、子どもの権利という事として頂いていますので、そういった人と一緒に行動して頂きます。
- 問題はどのように上がってきますか？家庭児童相談室は週4日相談室で電話相談や来室

相談をしていますが、この方は週4日どのように活動されますか？

⇒基本的には子ども家庭室に詰めます。今までは「家庭児童相談室へ相談に行ってください」と言うのが主な窓口になりますが、今回はそれにまちの保健室をもう一度PRし、「市役所や市内に一か所の相談室に来なくても、最寄りの地域の所へ相談をしていただければ良いですよ」という言い方をさせていただきます。そうすると、まちの保健室に相談が入ってきたらそこから本庁の包括支援センターを通じて、その情報がそれぞれの部署へ情報共有出来るという仕組みを作り、それに対し必要な部署が対応に当たっていく、そのようなイメージをしています。ですので相談をしたい人は今まで通り家庭児童相談に相談をかけてもらっても良いし、どこに行っても良いか分からない人は近くの地域にまちの保健室があるので、そちらへまず相談してくださいねと言う仕組みを作ります。

○名称は、「まちの保健室」ではなく、「まちの相談室」にしてしまう方が良いかもしれませんね。保健室だと時間外に急に調子が悪くなった時何か対応してもらえる所や、血圧を計りに行くと言う認識です。

⇒ご意見として、お伝えします。相談事があればここへ行ったら良いんですよと10年程繰り返しPRしていますが、いまいち浸透出来ていないのでチャイルドパートナーと言う名前をつけてみたりもしています。

○窓口は家児相や、まちの保健室で子どもの貧困であればコーディネーターまでいろいろな問題が集約され、関係者会議のような所で、これについてはどこの窓口が責任持つ、誰が持つなどと言う様な流れになるんですね。

⇒そのような流れにするということです。複合的ではなく単発的な課題であればそのまま情報が流れてきてそれぞれの担当が対応していくと言う形になります。今までであればこの課題についてはここしか駄目というイメージがありました。相談に行っても「ここではないので出直してあちらへ行ってください」と言う案内をしていたのを今後はやめていきたいと思いますという考え方です。「違います」と職員も言えなくなるので大変ですが。

○エリアディレクターと子どもの貧困対策のコーディネーターとの関係はどうか？

⇒関係部署の一員としてネットワークを組みます。仕組みは、他の担当まで指示を出しに行くのはエリアディレクターですが、そこではきちっと繋がっていきます。

○貧困対策コーディネーターはとりあえずエリアディレクターに繋ぐのですか？

⇒そうです。

○エリアディレクターは現在もいますか？

⇒これからです。

○それが3人？これは誰ですか？

⇒それは人選中です。

○職員ですか？

⇒職員も人選の中に入れないとはいけません。そちらの方は専門性が要求されます。

○包括のケアマネジャーの資格も、社会福祉士の資格も持っている方ですか？

⇒はい。

○貧困対策コーディネーターは資格を有する人とありますが、どの様な資格ですか？教育関係ですか？

⇒児童福祉関係があれば良いです。

○一番目の議題についてはシステムの中に子どもの貧困対策コーディネーターが1名加わって機能させたいと言う様な事でよろしいですか？これで議論終わってよろしいでしょうか？

⇒はい。ありがとうございます。

○地域の資源を活かした先行的なモデル、ばりっ子未来応援地域拠点づくり事業の検討という事について事務局のほうからお願いします。

⇒事務局説明

○支援対象者の基準や定義は明確になっていますか？

⇒今回考えていることは、生活保護対象から外れていく人がメインとなり、見守られていないけど生活が厳しい人です。ですので、そのような制度が受けることが出来ない人になります。そのような人たちを見守り、少し手を差し伸べながら居場所を作り、気になる子どもを少しでもたくさん発見し、地域の方の協力を得られたらちょっとした助けをしてあげられるような仕組みを作りたいです。そして、そのような子どもが多いかも分かりませんが、発見されたら個別の対応も可能だと思います。まず、そのような気になる子どもを発見していただいたら、その子どもの様子も地域の情報もいただきながら、このような支援なら可能など、見守りのネットワークプラスαの状況を作っていけたらという事を考えてます。今、仕組みとそれに対して対応出来る仕組みを構築して行きたいという考え方をしています。

○民生委員が、社協の生活福祉資金も既に就学援助とか入学金の援助とかもしてるので、それ以外ですか？

⇒そうです。

○私、子ども食堂をお手伝いさせてもらってるんですけど、全国的に子ども食堂ってすごく増えてきていて、名古屋などは週に1回、貧困のご飯も食べれない子ども、子ども達だけで食べに来れる場所をすごく提供していますが、名張は難しいです。そういう事が恥ずかしい、親が出さない、行かさない、「そういう風に思われるやろ」「うち、ご飯食べさせてないって言うたらバレてしまうやろ」ではないけど。

私は主催者側ではなく、ただのお手伝いですが、私が見てる感じでは本当に支援が必要としている家庭の人は出て来ないです。

中学に上がる時に、制服だけで5万、6万それ以外にも揃えると10万を超えてきます。自転車通学になるとプラス自転車もいるので全然足りません。リサイクルがあったら良いですが、それは私たちがこれからやって行ける事ではないのかなあと考えています。学校の入

学説明会の時に前年度卒業された保護者の方からもらい、そこで出して「良かったら持って行ってください」ということが出来ればいいです。

○子育て支援と言うけど、母親支援です。母親支援をしないと、子どもだけ見ているととも出来ません。

○子どもの問題と違います。結果として子どもに現象が現れてくるけれども、実際の根本は親です。

⇒今のようなお話がエリア会議のイメージになります。そんな中で、「誰がそしたらその人に声掛けていく」という話につきましても、その地域の中で相談できる体制が上手く取れたら、「あっ！その人やったら私喋れるで」とか、「あの人は知ってるで」という情報も、上手く繋がれば、それも支援になります。

○学習支援してくれてる子と話をしてみると、「なかなか広がりがいい」、「増えない」、「少ない」ということでしたがどうですか？

⇒一人親家庭の方という限定をさせて頂いています。今年の夏、百合が丘のNPOが主催で、広くどの小学生の子でもという事で募集したところ、思ったより応募が多かったので3か所に分かれて学習支援をしてくださいました。施設と百合が丘市民センターと地藏院の3か所に分かれ、1年生から6年生までたくさんの子どもの子どもが宿題を持ってきて、ボランティアの方が見てくれました。そういう事だとたくさんの子が集まってくれますが、児童扶養手当を受けて下さってる方々に、「こんな制度ありますよ」とお知らせもしても、一人親の方限定にしてしまうと「そこに行く子はやっぱり一人親なんや」という事でなかなか集まりません。

また、一人親家庭の方については母子の方が非常に多いです。外部の方を家に上げることは抵抗感が高いので、学習教室タイプで開催しています。利便性も考えてリバーナ3階のふくまちで開催していますが、そこに来てる子というイメージが出来ると嫌なのか、なかなか難しいのかなあと言う所です。あと、本当に学習させたい親御さんは無理してでも学習塾に通わせてくださる実情があり、なかなかこちらの思いとニーズが重なっていかないというのが実情と思っています。

国や県の補助があるので、その補助に乗れば事業が出来るのですが、それとは別のやり方をしようって言う事になると、今度は補助がないって言う問題があります。そんな中で取り組んでいくっていう時に、ある程度ボランティア、無償ボランティアや学校の先生のOBの方など、そう言った人のご協力を得ながら、仕組みを作っていくといけませんので、そのような部分を想定しての事業展開になります。なので、予算も限られています。

○来年度以降はどのようにしますか？

⇒その都度申請します。

○学習支援の対象者を貧困と限定してしまうと難しいので、貧困ではなく、制度とすれば貧困対象だけど、それを「みんなおいで」という形にすると来やすいのではないですか。

⇒不特定多数の中からそう言った子どもがいれば特別に何か配慮していける様な仕組みを

作りますという説明をさせて頂いてます。ですから、基本は不特定多数の方対象の事業です。
○学習支援でも子ども食堂でも子どもが行きやすい場所が必要です。各地域に大きな規模の所はいらないので、やっぱり子どもが1人で行ける場所がいいですね。

⇒地域の方でも、ここであれば良いよという場所もあります。それから退職された先生方にもお願いに行かせてもらい、「無料でも協力しますよ」と言ってくれる先生もいます。

そんな中で今回百合が丘地区が、地域を上げて取り組みをスタートされました。これは、完全に無償前提の取り組みですので、こういったのも情報共有しながら、事業を展開していきたいです。

○例えば制服のリサイクルや、集会所の利用など誰も思ってもなかなか踏み出せない事ありますよね。「こうすればこう良くなるんじゃないかな」ということを、開拓していくのが、コーディネーターの役割でもあるのかなと思っています。そのような感じでしょうか？

⇒そうですね。

○ありがとうございました。本当に貴重な意見を頂きました。人々の考え方もすごく多様化してきてるので、コンセンサスを作っていくのも難しい部分もあるかなあとと思いますが、少しずつ対話を積み重ねながら、子どものためにいろんな居場所づくりを広げていけたらなと思っています。本日はありがとうございました。